（1） 幼児期の自閉スペクトラム症児を育てる父親の役割に関する一考察

医療福祉学研究科医療福祉学専攻修士課程　○末本みずき
医療福祉学研究科医療福祉学専攻　諏訪　利明
医療福祉学研究科医療福祉学専攻　山本　茜
医療福祉学研究科医療福祉学専攻　岡本　宣雄

【目的】

本研究は，父親の役割について焦点を当て，幼児期の自閉スペクトラム症（Autism Spectrum Disorder: 以下 ASD）児を育てる父親の状況を明らかにし，父親への具体的な支援を検討することを目的とする．

【方法】

幼児期に児童発達支援事業で療育経験のある ASD 児者の父親6名を対象とし，インタビューを実施した．インタビューデータを基に質的データ分析法（佐藤 2021）により分析を行った．本研究は，川崎医療福祉大学倫理審査委員会の承認（22-053）を得ている．

【結果】

幼児期の ASD 児を育てる父親は，子どもの診断に対する揺らぎや子育てに対する戸惑い，妻に対する申し訳なさ，仕事と家庭とのバランスの難しさといった様々な葛藤が生じる状況があった．また父親は社会状況において，家庭や職場といった周囲からの期待を感じ，それらの期待に応えようとする状況があった． 父親は子どもの診断を知り ASD とは何かを模索し，夫婦で協力しながら子どもを育み，試行錯誤しながら主体的に行動し，父親の役割を遂行していた．そして父親は，わが子の特性への気づきから，子育てを通してその特性を少しずつ理解しようとしていた．また，父親の役割遂行の動機としては，子どもの成長を感じることがあげられ，さらに子どもから影響を受け父親自身の考え方を変化させていた．一方で子どもの成長や環境の変化に伴い，葛藤や期待が新たに生じる状況があった．そのような状況のもと，父親は継続的に役割を遂行していく背景として自助グループと繋がる状況があった．さらに，父親の役割を果たすためにサポートを求め，子どもの将来の暮らしを案ずる状況があった．

【考察】

療育経験のある ASD 児を育てる父親の役割遂行の動機としては子どもの成長を感じることであり，さらに自助グループの存在が下支えとなっていた．そのため療育では，父親が子どもの成長をより感じることができる機会を設けることや自助グループとの結びつきを促す必要があることが示唆された．